

ミュージアム連続講座

2024



「博覧会」と「芸術・科学」 ～想像と創造の力～

来たる2025大阪・関西万博。
万博は50余年前のあの
EXPO'70のみならず、前々世紀
からの歴史を持っています。
今回のミュージアム連続講座で
は、「博覧会」にまつわる話を中
心にお届けします。

日 程：2024年12月5日(木)、12日(木)、
19日(木)
時 間：午後6時30分～午後8時30分
(午後6時開場)

全3回

12/5[木]
12/12[木]
12/19[木]

定 員：100名(多数抽選)
参加費：無料
会 場：大阪市立難波市民学習センター 講堂
申込締切：2024年11月18日(月)

主催：地方独立行政法人 大阪市博物館機構
一般財団法人 大阪市文化財協会
公立大学法人 大阪 大阪公立大学
大阪市立難波市民学習センター
(指定管理者：一般財団法人 大阪教育文化振興財団・
SPS 共同事業体)

※3回通しの申込みになります。申込み方法は裏面をご覧ください。

「博覧会」と「芸術・科学」

～想像と創造の力～

申込み方法 締切: 2024年11月18日(月)



インターネットからの申込み

大阪市生涯学習情報提供システム「いちようネット」(https://www.manabi.city.osaka.lg.jp/)から、「講座・イベント」を選択し、キーワード欄に「ミュージアム連続講座」と入力・検索のうえ、お申込みください。



センターへ来館しての申込み

返用はがき、もしくは、はがき代85円をご持参のうえ、センター窓口にてお申込みください。開館時間 9:30~21:30 (日曜・祝日17:00)・(休館日:毎月第1・3水曜日、年末年始)



往復はがきでの申込み

名前、住所、電話番号、返信用宛名面をご記入のうえ、難波市民学習センター「ミュージアム連続講座」係までお申込みください。(※2024年11月18日(月)必着)

会場: 大阪市立難波市民学習センター 講堂

〒556-0017

大阪市浪速区湊町1-4-1 OCATビル4階

https://osakademanabu.com/namba/



- Osaka Metro各線「なんば駅」、南海電車「難波駅」、近鉄・阪神電車「大阪難波駅」よりなんばウォーク、OCATウォークを西へ。「OCAT」・「JR線」の表示に沿ってお越しください。
- JR大和路線「難波駅」すぐ。
- 大阪シティバス「JR難波駅前」下車すぐ。

問い合わせ先: 大阪市立難波市民学習センター



06-6643-7010

〈個人情報の取り扱いについて〉

■ご記入いただきました個人情報は、講座ご参加の確認や、講座に関するご連絡のためにのみ使用し、お申込みをもって使用に同意されたものとさせていただきます。■主催者: 大阪市教育委員会 ■ご記入いただきました個人情報は、講座の開催・運営に必要な範囲(上記利用目的の範囲)において、個人情報の全部または一部を預託・共同利用する場合があります。〈共同利用者の範囲: 大阪教育文化振興財団・SPS共同事業体(指定管理者)、事業体構成団体: ①一般財団法人大阪教育文化振興財団 ②サントリー・パブリシティサービス株式会社〉■個人情報の取扱い、苦情及びご相談に関するお問い合わせ先: 個人情報保護管理者代理人 一般財団法人大阪教育文化振興財団 総務課長宛 Tel: 06-4963-2527 (月~金 10:00~17:00)

〈講座の開催中止について〉

「大阪市域」に「暴風警報」または「特別警報」が午後4時の時点で発令されている場合、もしくは地震等で大阪環状線とOsaka Metroの双方が運行を停止した場合、講座は中止とさせていただきます。詳しくはセンターまでお問い合わせください。



第1回

2024
12/5
木曜日



西安・大雁塔

- 1 太陽の塔が照らした未来: 1970年万博が創造した文化の多様性 ~都市、建築、芸術、音楽が共鳴する 未来都市のデザイン~

辻 邦浩

大阪公立大学
都市科学・防災研究センター
客員教授

1970年の大阪万博では、梅棹忠夫、小松左京などの知の巨人達をはじめ建築家、芸術家、音楽家達も加わり、未来志向で多様な文化を創造し表現しました。この70年万博が、建築、芸術、デザイン、音楽、ファッション、そして情報産業に与えた影響を振り返り、これからの未来社会のデザインを考えます。

- 2 「7世紀の東アジアの
仏教文化の集積地・大阪」

寺島 典人

大阪市立美術館
学芸員

大阪に都(難波宮)があった7世紀中ごろ、世界各国から大阪に最先端の文物が集まりました。この時代の仏像をながめることで、当時の国際交流をみていきたいとおもいます。あわせて、70年大阪万博と仏像についても触れる予定です。



©NASA

第2回

2024
12/12
木曜日



- 1 「万博で夢見たサイエンス展」

渡部 義弥

大阪市立科学館
学芸員

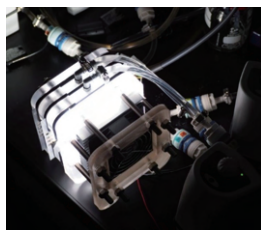
1970年万博で人気だったのは「月の石」「携帯電話」「人間洗濯機」「コンピュータ」どれもが科学技術の成果であり、それがあつた生活を夢見させるものでした。そしてその夢はその後どうなったのか。万博で夢見たサイエンスは、その後どう展開したのか。万博の効果はどうなのか。色々な万博からとりあげ、ご紹介します。

- 2 「20世紀からのメッセージ開封」

奥本 末世

大阪歴史博物館
学芸員

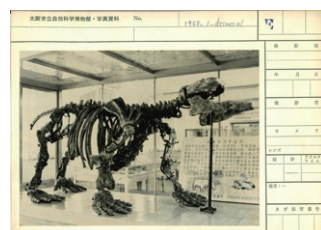
5,000年後の人類の繁栄を信じ、日本万国博覧会開催時の文明を後世に伝えるべくタイム・カプセル EXPO' 70 が製作されました。カプセルの中に収納された物品と記録は20世紀からのメッセージといえます。本講演では、メッセージの開封を通して、万博開催から50年経過した現代社会が何を受け継ぎ、どのような進化を遂げてきたか考えます。



人工光合成デバイス

第3回

2024
12/19
木曜日



- 1 「大阪・関西万博2025への出展に向けた人工光合成研究の取り組み」

天尾 豊

大阪公立大学
人工光合成
研究センター 所長

太陽光エネルギーを利用して水と二酸化炭素を原料として燃料や有機物質を作り出す人工光合成はカーボンニュートラル達成に向けた課題を解決する技術の1つとして期待されています。この講座では大阪関西万博2025に出展する人工光合成技術についての概要と、人工光合成技術の社会実装の可能性について紹介します。

- 2 「博覧会と自然史博物館
レガシーを受け継ぐために」

佐久間 大輔

大阪市立自然史博物館
学芸員

それはまだ、自然科学博物館が、天王寺の美術館に間がりしていた時代、「講和記念婦人とこども大博覧会」という博覧会が大阪で開催されました。当時、新しい博物館の構想はこの博覧会と密接な関係にありました。1970年万博、1990年花博、いずれも自然史博物館に資料を残し、発展の基礎となってきました。その歴史を振り返ります。